

兵庫県産蝶類目録の一部訂正

山 本 広 一

筆者は1958年以来、吉阪道雄とともに“兵庫県産蝶類目録”(1)~(4)を発表したが、その後九州大学白水隆・林千別両先生をはじめ、萩原一郎・山西元両氏より、ご懇切なご教示を頂いたので、そのご好意を深謝し、つぎのとおり訂正したいと思う。

1. Vol. 3, No. 4, p.229, 左側15行目, “故松崎氏”は“故松沢重太郎氏”; 同20行目, “堀田久作氏”は“堀田久氏”の誤記。なお松沢氏の手記は1948年になるもので、氏はその翌1949年の7月、淡路の生物についての幾多の業績を残して74才の高齢をもって他界された。
2. Vol. 4, No. 1, p.40, 左側5~7行目, ウスイロヒョウモンモドキのうち, “コヒョウモンモドキにおける ab. murakumo HARUTA と同一傾向にあるもの”を削除する。ab. murakumo は黒化の著しい異常型であり、筆者の所蔵するものとはまったく別な傾向を示すものである。
3. Vol. 4, No. 1, p.44, 左側2行目, ヒメヒカゲの学名を“Coenonympha oedippus arothius OKADA et Torn”と訂正する。これは、同号 p.268の拙著“小野市の蝶を語る”のヒメヒカゲの場合も同様である。
4. Vol. 5, No. 1, p.52, 右側6行目, メスアカムラサキのうち“青森がその北限となっている”を削除する。本種は1955年、すでに北海道樺戸郡十津川村で採集されていたことが、萩原一郎氏によって、COENONYMPHA, (7): 101, 1958, に報告されている。なお、右側8~9行目, 岡村八郎氏採集の西宮市武田尾産♂はリュウキュウムラサキと判明したので、この項より削除、また、岡村はた氏の西宮市での“♂”は“♀”誤記。
5. Vol. 5, No. 1, p.53, 左側29行目, ギンモンウスキチョウのうち産地の一つ“明石市”は“神戸市”の誤記。

“1964年夏の理科作品展に拾った2~3の蝶と、 その分布について”の訂正追補

山 本 広 一

本誌Vol. 5, No. 1, p.47~50の上記標題の内容について、つぎのとおり訂正、または追記する。

1. ギンイチモンジセセリ
(7)美方郡扇ノ山広留野での採集月日, “11.V, 1961”は“11.VI, 1961”の誤記。
西村公夫氏の朝来郡段ガ峯産については、西村氏よりつぎのような詳細があった。
(1)峯山高原 (Alt.900m), 16.VI, 1958, 3♂♂, 1♀
(2)暁晴山 (Alt.1,077m), 3.VII, 1959, 1♂
(3)倉谷山 (Alt.1,104m), 10.VII, 1954, 3♂♂
(4)倉谷山 (Alt.1,080m), 16.VI, 1961, 1♂
(5)段ガ峯西段 (Alt.650m), 27.VI, 1963, 1♀
いずれも西村公夫氏採集ならびに所蔵、春型である。
これについて同氏は、この中央山地帯の800m以上の高原にあっては5月に未採集であり、6月中旬の最盛期に

新しい春型の採集されることから年1回の発生ではないかといっている。

2. キマダラルリツバメの新産地の追加。
(1)三木市旧三木町, 10.VI, 1965, 1♂, 2♀♀, 永岡氏採集・所蔵(永岡大純氏私信, 1965)。標本は1965年度の神戸市内児童生徒の理科作品展に出品され、筆者確認。
3. ギンモンウスキチョウの行政地名のについて。
(3)“明石市小寺”は神戸市垂水区伊川谷町小寺”と訂正する。
4. メスアカムラサキの一部訂正。
(2)“西宮市武田尾”の項は全部削除。
(4)西宮市内で獲た1♂”は“♀”の誤記。
以上、いずれも、関係の方々よりご教示を得たものであることを記し、厚くお礼を申し上げる。